

令和2年度 高学年授業改善プラン

	児童の課題	改善策
国語 5年	<ul style="list-style-type: none"> 文章の中で既習の漢字や仮名を適切に使い分け、正しく書くこと。 目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように、構成や書き表し方を工夫して書くこと。 目的や意図に応じて話の内容を捉え、相手の考えと比較しながら自分の考えをまとめること。 	<ul style="list-style-type: none"> 書くことだけでなく漢字ドリルを音読するなど、様々な方法で漢字に触れる機会を多く設ける。漢字のもつ意味についても丁寧に指導を行う。文や文章を書く際には、既習の漢字を使って書くことを継続して指導し、漢字のもつ意味を考えて使う習慣が身に付くようにする。 構成メモの作成など、文章を書く前に内容の準備や検討が十分にできるように指導計画を立てる。文章構成や例や図表の効果的な使い方などについて、説明的な文章で学んだこととも関連付けながら指導を行う。 話し合いの目的をよく確認したり、話し方や聞き方のポイントを示したりする。国語の授業以外の話し合いの場などでもポイントを意識するようにし、経験を積み重ねられるようにする。話し合い活動の際には、机の配置や体の向きに留意するなどして場の設定を工夫し、十分な距離を空けて話し合い活動を行う。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。 第5学年に配当されている漢字を読んだり書いたりすること。 筆者の主張や、文章全体の構成を理解し、説明的な文章を読むこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の立場や意図を明確にするために、ノートやワークシートに書く活動を設定する。話し合いを始める前に、話し合いの内容や順序、時間配分、目的や方向性などを検討し、全員が的確に把握した上で活動に入ることができるようにする。 話し合い活動では、飛沫拡散防止のために、ビニールでしきられた教室を使用したり、机の配置や体の向きに留意するなどして場の設定を工夫したりして、十分な距離を空けて行う。 単元のまとめとして作文を書く際には、5年生に学習した漢字の一覧などを活用しながら活動にあたるよう指導する。 要旨をまとめたり文章全体の構成を捉えたりできるようにするために、筆者の主張とそれを支える事例の関係に着目しながら、それぞれの段落に書かれているかを確認しながら読み進めるようにする。説明的な文章を学習する際には、毎回このことに取り組んだり、筆者の論の進め方について考える活動を取り入れたりすることで、定着を目指す。
社会 5年	<ul style="list-style-type: none"> 地図帳や地球儀、統計などの資料を通して、情報を適切に読み取ること。 資料から読み取ったり考察したりしたことをまとめること。 社会的事象について、自分事として捉えることや、主体的に学習の問題を解決しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料を読み取る際の視点を示し、指導する。また、デジタル教科書や電子黒板などを積極的に活用し、視覚的にも理解しやすいように授業形態を工夫していく。 地球儀を用いる際は、ペアで一台用意し、多くの児童が教具を共有しないように配慮する。また、使用後は消毒等の処置をする。 知識だけでなく社会的事象の理由や意味を考え、学習問題シートにまとめたり、発表したりする機会を授業の中で増やしていき、知識を活用できるように指導していく。 食料生産や米作りなど、生活と深く結びついている単元は、自分たちの生活を振り返ることで、疑問や課題に気付けるようにする。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 資料集や地図帳など、必要に応じて複数の資料から情報を読み取ること。 社会的事象の理由を考えたり、複数の資料を関連付けて、読み取ったりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書だけでなく、複数の資料から情報をまとめることができるように、資料の掲示でポイントを示したり、デジタル教科書や電子黒板を積極的に活用したりしていく。 資料から読み取ったこと、そこから考えられることを分けて考えさせる。社会的な見方(時間的・空間的・関係的)・考え方(比較・分類・関連・総合)を生かして資料を読み取るよう指導し、定着を図る。
算数 5年	<ul style="list-style-type: none"> 4年生までに学習している小数のわり算を正しく計算すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で計算する機会を増やしたり、既習の計算の仕方を繰り返し丁寧に確かめたりする。 定着が不十分な児童には、補充のプリントを配布したり、授業の始め

	<ul style="list-style-type: none"> ・計算のきまりを活用して、工夫して計算すること。 ・2つの量の関係を考えるときに、どちらをもとにするのかを正しく判断すること。 ・新型コロナウイルスの感染予防をしながら意見を交流し、自分の考えを広げたり深めたりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・に数問の計算練習の機会を作ったりする。 ・計算のきまりを活用するよさに気付かせるために、工夫して計算している児童のやり方を全体で取り上げる。また、どのきまりをどのように使ったのかを共有して活用を促す。 ・数直線の図を書く手順を何度も確認したり、その図を使うことのよさを実感できる機会を作ったりする。 ・電子黒板や書画カメラなどのICT機器を活用し、ソーシャルディスタンスを確保しても充実した交流が実現できるように様々に工夫する。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・小数や分数のかけ算、わり算の文章問題を理解し、正確に立式すること。 ・「長さ」「重さ」「面積」「体積」などの量の単位の相互関係に着目して統合的に理解すること。 ・円の面積について理解すること。 ・体積について理解し、活用すること。 ・解法などを交流し、自分の考えを広げたり深めたりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題の場面を考えさせる活動では、数直線などを活用して場面を整理させ立式の根拠をもたせる。 ・友達とノートに書いた考えを見合う活動を取り入れ、様々な解き方があることに気付かせたり、友達の考えを生かして、自分の考えを広げたりさせる。 ・確実に立式できるように、途中式を書いたり、計算の前に見当をつけてから計算したりするよう指導する。また、確かめの方法も指導する。 ・単位計算尺の制作で形式的な単位換算の指導に終わることなく、日常のいろいろな事象と結びつけ、楽しみながら活動できるよう指導法を工夫する。 ・円の面積の公式を導くために、実際に描かれた円を切ったり貼ったりする活動を取り入れたり、図形を色分けしたりして考えさせるなどの取り組みを行う。 ・立体図形を使って敷き詰める活動をしたり、公式を導き出したりして、体積の理解を深める。また、式の中の数値や部分が何に当たるのかを図形と対応させながら考えていく。 ・新型コロナウイルスの感染予防(電子黒板や書画カメラなどを活用)をしながら、友達の考えを知り、自分の考えと比べてさらに分かったことや考えたことをノートに加えさせる。
理科5年	<ul style="list-style-type: none"> ・条件制御について理解し、それを基に実験・観察の方法を考えること。 ・実験や観察の結果をもとに考察し、自分の考えを自分なりの言葉で表現すること。 ・学習したことを日常生活の中での事象に活用して考えること。 ・理科室の利用や実験や観察の器具の使用の際、新型コロナウイルスの感染が危険される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたいことに関わる条件のみを変えることを繰り返し指導する。 ・変える条件と変えない条件が一目で分かるようにするために、マトリックスなどの思考ツールの活用を図る。 ・結果と考察、結論の違いを明示的に指導するなど、単元の学習の流れを児童と共通理解して授業を進める。 ・クラスで結果を共有したあと、結論を考えさせる前に問題を再度確認し、それに対する答えを書くことを繰り返し指導する。 ・教科書の単元末に設定されている「学んだことを生かそう」において、学習した内容の中でも具体的にどのことと関連付けて考えればよいのかをクラス全体で考えたり、問題で設定されている場面以外でもどのような場面で活用できるかを出し合ったりする。 ・ペアで1つ、可能であれば一人1つなど、多くの児童による器具の共有をなるべく避ける。(そのことによって、多くの児童が自分で操作する機会を得られ、学力向上につながることを期待できる。)
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・「地球」「エネルギー」領域のように、実際に見たり、さわったりすることが難しい事柄について理解したり考えたりすること。 ・科学的な言葉や概念を使用して考えたり、説明したりすること。 ・観察・実験した結果や調べた資料から分かることを読み取ったり、問題に対して考 	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル実験や映像資料などを見せたり、タブレット端末で調べる活動を設定したりするなど、教材・教具を工夫する。 ・感染症防止対策のために実施できない観察・実験は演示するなど、体感を重視する。 ・予想や結果、考察などを書く活動では、記述をする前に、使用する言葉や概念を提示したり、児童と話し合ったりする。 ・結果や資料から読み取ったり考察したりする際、自分で考えて文章にまとめたり、それをグループや全体で検討したりする活動を設定

	<p>察したりすること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理科室の利用や実験や観察の器具の使用の際、新型コロナウイルスの感染が危惧される。 	<p>し、自分の考えの足りない部分や友達のよりよい考えを理解できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理科室の机：向かいにシールドとなるシートを設置する。できるだけ実験器具などの共有を避ける。可能な限りペア、またな個人で観察・実験を行う。（そのことによって、多くの児童が自分で操作する機会を得られ、学力向上につながることを期待できる。）
音楽 56年	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞活動において、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えながら楽曲を味わうこと。 ・歌や演奏活動において、自分の思いや意図をもち、それにふさわしい表現をするために必要な技能を身に付けること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感じ取ったことを起点に、その理由を、音楽を形づくっている要素の働きに求めるような発問を多く取り入れる。また、音楽を言葉で表すことに慣れるため、感じ取ったことや気付いたことをグループで伝え合うなどの活動を充実させる。またその際には、密に気を付け、一定の距離を保ち感染症を予防する。 ・デジタル教科書や楽譜に書き込めるプリントなどを活用して、楽譜と音との関連を意識できるようにする。また、音楽に対して「こんな風に演奏したい」という自分の思いや意図をもてるよう、鑑賞活動などと一体化させながらその曲のよさを感じ取り、表現活動につなげていくようにする。活動に当たっては、感染症予防のためパーテーションを利用し、間隔を開け、十分に換気された部屋で行う。
図工 56年	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に活動できるようにする。 ・用具や材料を安全で適切に使えるようにする。 ・自己肯定感をもてるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・題材の中で、児童が意思決定する機会を増やして主体的な活動を促す。 ・用具や材料は児童が使いやすいように手入れや準備を行い、正しい使い方をしっかりと全体に指導する。具体的な使い方についてはそれぞれの児童の熟練の程度によって個別に指導していく。道具の共用はできるだけ避け、必要な場合は消毒しながら使う。 ・互いの作品を鑑賞する機会を設けて、友達の作品や表し方の良さや面白さを共有し、認めあえるようにしていく。鑑賞の際には一定の距離をとり、作品への接触は控えるようにする。 ・展覧会の出品作品を自分で選ぶようにして、より自信のある作品を発表していけるようにする。
家庭 56年	<ul style="list-style-type: none"> ・生活体験が乏しく、家庭生活への関心が低いこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習過程を工夫する。自分の家庭生活を見つめて題材に関する問題を見いだして課題を設定し、実践的・体験的な活動を重視した活動を通して基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る。身に付けた知識・技能を活用した実践活動を行う。計画を工夫して実践活動を行い、実践を評価・改善して、家庭・地域での実践につなげる。 ・ICTを活用して対話的な学びの実現を図る。考えを交流し合うことで多様な解決方法に気付き、自分の生活と関連付けながら家庭生活を工夫できるようにする。 ・身に付けた知識及び技能を生かした家庭実践計画を立て、家庭において主体的に課題解決できるようにする。 ・「家庭科だより」を発行し、学習のねらいや内容を知らせ、家族が学習の意義や内容を理解できるようにして協力を得、また、家庭からの一言を依頼し、児童が家族の役に立つ喜びを実感し、実践意欲が高まるようにする。 ・サポート松山の協力を得て、実技面で遅れがちな児童への支援や安全対策を充実させる。 ・「調理の基礎」については、実施時期や方法を工夫する。
体育 5年	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手意識があり、運動に消極的な児童がいること。 ・自己のめあてを意識して課題を設定し、 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の興味・関心が高まるような単元の導入の工夫をすることで体を動かして楽しく運動できるようにする。運動を通して、自己の課題を解決することで、体を動かす楽しさや喜びを味わえるようにする。練習の場や方法を工夫することによって、運動が苦手な児童にも支援をしていく。 ・自己の課題を明確にし、課題に対して解決していくことを通して、思

	<p>課題解決に向けて思考・判断をすることともに、友達に伝える力を養うこと。</p>	<p>考していく環境を授業で作る。その際、友達と教え合いうことを通して、伝える力を高めていく指導をする。</p>
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手意識をもっている領域の運動に対して、意欲的に取り組んだり、自分にできそうなことに挑戦したりすること。 ・自分のめあてや課題を設定し、それに合う練習の場や方法を選ぶこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・その領域の主たる運動につながる楽しいアクティビティを単元や授業の初めに設定したり、どのような練習をすればできるようになるのかというポイントを明確に示したり、スモールステップで練習できる場を用意したりする。 ・学習カードに、毎時間自分のめあてや課題を書かせ、それが適切であるかどうかを必要に応じて助言する。多様な練習の場や方法を準備するとともに、どういうめあてや課題を設定した場合にその場や方法が有効であるのかを明確に示す。
外国語5年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことや身近で簡単な事柄について簡単な語句や基本的な表現を聞き取ったり、伝えたりすることができること。 ・活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音すること。 ・基本的な表現も用いて指示、依頼をし、それらに応じたりすること。 ・大文字、小文字を活字体で書くこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な物を表す語句や表現を聞いたり、質問に答えたりする活動を取り入れる。 ・フラッシュカードやワークシートに文字を表記し、文字を意識させる。 ・授業で使う言葉をパターン化し、児童が英語だけでも理解できるように自信をつけさせる。 ・書く活動を取り入れ、その都度、気を付けるところ意識するところを指導していく。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要が捉えられること。 ・自分や相手のこと及びの周りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問したり、答えたりして伝え合うこと。 ・自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の様子を見て、話す速さや説明を工夫し、多くの児童が理解できるよう工夫していく。 ・既習事項を生かし自分ごとと考え、自分の思いや考えを英語で伝える活動を取り入れる。 ・書く活動を取り入れ、その都度、気を付けるところ意識するところを指導していく。